

# 令和5年度（2023年度）重点目標について

令和5年（2023年）4月 校長 大澤 照司

## 〈学校教育目標〉 育てよう輝く未来

～ 本気・勇氣・根気・大好き 追浜小学校 ～  
本気 夢をもち その実現に向けて努力する  
勇氣 判断し工夫して よりよい行動を生み出す  
根気 あきらめず 最後までやりぬく  
大好き 自分を大切に 他の人も大切にする



令和5年度重点目標 ～「大好き」の心を育てるために～  
**笑顔と「ありがとう」あふれる学校**  
自己他者肯定感を高め、認め合い高め合う関係を築く力を育てる。

本校の学校教育目標「育てよう輝く未来」には、目指す子ども像として4つの「き」（本気・勇氣・根気・大好き）があります。どれもとても大切な目標ですが、その中でまず一番目に重点を置いて育てる「き」は、「大好き」であると考えました。それは、「大好き」で目指す子ども像「自分を大切に 他の人も大切にする」、すなわち「自己他者肯定感を高め、認め合い高め合う関係を築く力を育てる」ことが、他の3つの「き」（本気・勇氣・根気）が目指す力の基礎となると考えるからです。自己他者肯定感が高まってこそ、夢を持って努力したり、よりよい行動を生み出そうとしたり、あきらめずに最後までがんばろうとしたりすることができるのではないのでしょうか。

そこで、「大好き：自分を大切に 他の人も大切にする」の心を育てるために、自己他者肯定感を高め、認め合い高め合う関係を築く力の育成を令和5年度の重点目標としました。

合言葉は「笑顔と『ありがとう』あふれる学校」です(^)/

## 1. 自分らしさを安心して、伸び伸びと

子どもたちは、一人一人がそれぞれに素晴らしい力を持っています。つい短所だと思うことばかり目に付いてしまいがちですが、それは短所ではなく、その子らしさであり、そこにその子の長所があるということもたくさんあります。

例えば、「どうも落ち着きがなくて」・・・それは、活発で行動的で、色々なことに興味を持てるのです。「何だか頑固で、意地っ張り」・・・それは、自分の気持ちをしっかり持って、一生懸命考えているのです。「どうも控えめ過ぎて、言いたいことも言えないようで」・・・それは、人の気持ちをたくさん受け入れてあげられる、人をとっても安心させてあげられる素敵な心の持ち主です。

子どもたちは、それぞれに違った素晴らしい力、可能性、自分らしさを持っています。一人一人の子が、その自分らしさを安心して、伸び伸びと、思い切り発揮し、笑顔がいっぱいにあふれる学校を目指していきます。

## 2. そのために大切なこと 自己他者肯定感を高める ～笑顔と「ありがとう」あふれる学校～

### ① 笑顔あふれる学校

まず、子どもたちが自分を好きになること、自分で自分らしさを認めていけるようにすることが大切です。自分で自分のことを嫌だなと思っていて、自分らしさを発揮しようとは思わないでしょう。でも、自分で自分のことを認めるのは、案外難しくて、そう素直にはできないものです。時に人は、自分が短所だと思い込んでいるところにばかり気になってしまって、自分自身を嫌いになってしまうことがあります。でも見方を変えれば、それがその人らしさであり、長所だということもよくあります。自分で自分らしさを認めて、好きになるには、周りの人が、その子らしさを認めて、大切にしようという気持ちで接していなければ、なかなかそうはいきません。子どもたちがお互いに認め合い、大切にしよう、ということがとても大事になります。

そのためには、一人一人がお互いのことをよく知っていなければなりません。子どもたちがお互いの個性、その人らしさを知っていなければ、そして、それをその人の長所として大切にしていこうという気持ちを持っていなければ、追浜小学校という集団の中で、その子らしさなんてなかなか発揮できるものではありません。

「そんなことしたら、どうせみんなに文句言われる。」「みんなに見られると恥ずかしい。」「勝手なことばかり言って、私の気持ちは全然聞いてくれない。」といった雰囲気の中では、不安で自分らしさを発揮する気にはならないでしょう。

「大丈夫だよ。応援するよ。安心して任せられるよ。私たちが協力するから、心配しなくていいよ。」こうした周りの仲間の信頼の目や言葉に包まれたときこそ、人は本当の自分の姿や力を発揮することができ、笑顔があふれるのだと思います。そして、自分を知り、認めてくれる仲間がまわりにいるということは、その人にとっては、たいへんな安心になり、失敗を恐れない勇気になり、最後までやり抜く力になります。

また、心からの喜びに満ちた笑顔は、周囲の人も勇気付ける力があります。子どもたちがお互いに友だちを安心させたり勇気付けたりして、笑顔いっぱいにしてあげられる関係を築いていけるように取り組んでいきます。

### ② 「ありがとう」あふれる学校

そのためにも、「ありがとう」という気持ちと言葉を大切にしたいと思います。日々の生活の中には、できて当たり前、あって当たり前、分かってもらえて当たり前のことのように思っていることや、とても素晴らしいことなのに気に留めなければそのまま流れて行ってしまうようなことがたくさんあります。そうした一つ一つのこと感謝の気持ちを持ち、それを「ありがとう」の言葉で伝え合うことができたとき、人は、うれしくなります。優しくなれます。安心できます。自信が持てます。つながり合えます。教室が、学校が、「ありがとう」の気持ちと言葉であふれたとき、子どもたちは、自分を好きに、仲間を好きになれると思うのです。

また、人は、つながり合いの中で生きています。人に親切にしてもらい、うれしかった思いや自分が受けた思いやりの心、感じた感謝の気持ちを、相手の人にだけ返すというのではなく、他の人にも返してみる。自分を大切に思ってくれている人に対して感謝の気持ちを持つことができたなら、自分がその人と同じように思いやりの心を持った人になること。

親切にされた相手にだけ親切にしたり、相手からの見返りを期待して親切にしたりするのではなく、自分が受けた思いやりの心を、自分ができるとき、できる人に対して、できる形で表していくこと。それが、人がつながり合いの中で生きているということだと思います。

### 3. 子どもたちの成長のために チーム追浜一丸となって

そうはいつでも、まだまだ相手のことを考えるより、自分中心のこともたくさんあるでしょう。友だちとの行き違い、上手くいかないこと、思うようにならないことなどもたくさん起きることでしょう。それはあって当然です。でも、その一つ一つをみんながお互いに解決していく経験が重要です。それは、子どもたちがお互いに認め合い高め合う関係を築くための大切な学びになります。そして、将来に向けて、子どもたちが自らより良い人間関係をつくっていく力のベースとなっていきます。

まず教職員が子どもたち一人一人のことをよく知り、日々の学校生活の様々な場面で、その子らしさを、その子の良さ、素晴らしさとして話し、伝えていきたいと思います。そのためにも、日常の中からこそ見えてくる子どもたちの本音やその子らしさを見取り、子どもたちが安心して教職員に相談できる関係をつくることを大切にしていきます。

子どもたちは、一人一人がそのまま本当に素晴らしい存在です。それは、何かができるからとか、何かの役に立つからということではありません。その存在そのものが、素晴らしい輝きを放ち、人の心を豊かにし、笑顔や力を与えることができます。

かけがえのない子どもたちと共に過ごせることに感謝の気持ちを持ち、子ども理解を深め、子どもたちの成長のために教職員一同チーム追浜一丸となって「笑顔と『ありがとう』あふれる学校」を目指していきます。

皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

最後までお読みくださり、ありがとうございました(^^)

だいす じぶん だいせつ ほか ひと だいせつ  
**大好き：自分を大切に 他の人も大切にする**

